



Wa

秋
号

2018 Autumn
Vol.49

● チーム医療の活動紹介

『倫理コンサルテーションチーム(ECT)』について

● 専門外来

専門外来のご案内「PAD・末梢動脈外来」

● がん診療について

最新手術機器 手術支援ロボット『ダヴィンチ』で行う食道がん手術

● 秋の味覚について

● 市民医学講座のお知らせ

チーム医療の活動紹介

『倫理コンサルテーションチーム(ECT)』について

精神看護専門看護師 福岡 敦子

倫理コンサルテーションチーム（ECT）は、患者さんやご家族、医療者が直面する倫理的な問題解決のために、医療者からの相談を受け、可能な限り早急に、医療チームとECTが倫理カンファレンスで検討のうえ、最善の方針を決定できるように医療者への助言やサポートを行っているチームです。患者さんにとって何が最善か分からない、関係者間で意見が対立している、生命にかかわる問題で判断に迷いがある患者さんの治療方針決定の場面で活用されています。



▲倫理コンサルテーションチームのメンバー
医師、看護師、ソーシャルワーカー、医療
メディエーターで構成

具体的には、生命維持治療の中止や差し控え、終末期の判断や鎮静、告知、治療拒否、同意能力・代理決定・事前指示、医療資源の公平な配分、抑制・行動制限などがテーマとなります。

医療チームが方向性を一致させて、患者さんにとって最善の医療・ケアを、自分たちで意思決定できるようにサポートしています。

わが国では、超高齢社会を迎え、患者さんの人生の締めくくりの時期に、家族や医療者、ケア関係者などが、どのように寄り添うかが大きな課題となつていきます。患者さんが望む医療及びケアについて、その意思を確認できなくなる時が、いつ訪れるのかを予測することは困難です。将来の変化に備え、大切な人の人生の最期が迫った時、本人が望んでいない医療・ケアが行われてしまうといったことを避けるために、患者さんを主体として、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合い、その意思を共有しておくことが重要です。このプロセスを、アドバンス・ケア・プランニング（ACP）と呼びます。



▲倫理カンファレンスの様子

ECTは、患者さんの意思を十分に尊重し、尊厳ある生き方を実現できるように、ACPを医療者間で共有するための仕組みづくりや、ACPの周知・広報に取り組んでいます。まずは、話し合いのきっかけをつくったり、話し合いのプロセスの場をもつことから始めていきましょう。



ACP（Advance Care Planning）とは？

将来の変化に備え、**将来の医療及びケアについて、患者さんを主体に、そのご家族や近い人、医療・ケアチームが、繰り返し話し合いを行い、患者さんの意思決定を支援するプロセスのことです。**患者さんの人生観や価値観、希望に沿った、将来の医療及びケアを具体化することを目標にしています。



日医新キャラクター「日医君（にちいくん）」

専門外来のご案内「PAD・末梢動脈外来」

循環器内科 齋藤聡男・成子隆彦

近年、若年から動脈硬化が進行しやすい生活環境が後押しして、末梢動脈硬化症 (PAD)の罹患人口が急増し、その5年生存率は、大腸がんに匹敵すると言われています。

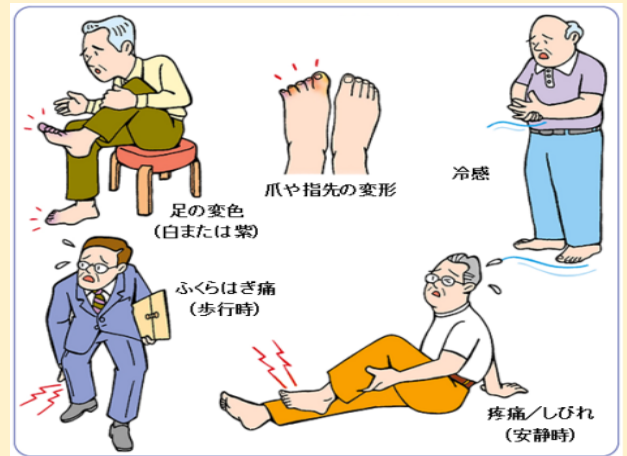
当院では平成30年8月から末梢動脈疾患を対象とした「PAD・末梢動脈外来」を開設しました。

PAD：Peripheral Artery Diseaseとは日本語にすると末梢動脈疾患という意味になり、末梢動脈とは心臓以外の動脈のことを指します。末梢動脈疾患には、血管が狭くなったりつまってしまう閉塞性疾患と、動脈瘤のように血管が大きくなってしまふ拡張性疾患があります。その中では、足の血管がつまってしまう閉塞性疾患である閉塞性動脈硬化症 (ASO：Arteriosclerosis obliterans) が大多数を占めています。そのため、PADとASOはほとんど同じ意味として扱われています。

PADやASOという言葉は聞きなれない方がおおいかもしれませんが、狭心症や心筋梗塞、脳梗塞という病名を耳にすることは多いのではないのでしょうか。これらの病気はいずれも動脈硬化で血管がつまってしまって発症します。PAD (ASO) も足の血管が動脈硬化でつまってしまって発症します。そのためPADになりやすい患者さんは、狭心症や心筋梗塞・脳梗塞になりやすい患者さんと同様に、糖尿病や脂質異常症・高血圧・喫煙などの危険因子を持っている場合がほとんどです。

● PADの症状

初期は無症状ですが進行すると、①足の冷感や色調の変化、②歩くと太ももやふくらはぎ・足の裏などが痛くなり休むと症状が軽快する間欠性跛行 (かんけつせいはこう)、③安静にしているとも足が痛くなったり、④足に潰瘍ができたり、⑤壊疽と言って腐ってしまい足を切断しなければならなくなることもあります。



● PADの治療

軽症の間は主に薬物治療を行います。血液がサラサラになるお薬を使用したり、動脈硬化が進行しないように糖尿病や脂質異常などの原因疾患に対する治療を行います。

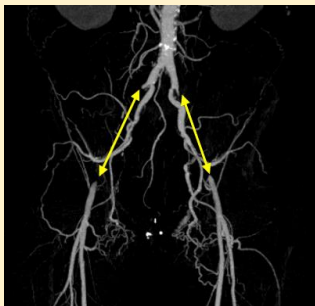
病状が進行している場合は、血流を改善するためにカテーテル手術や外科的手術で血行再建を行います。

①カテーテル手術

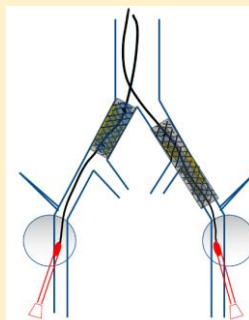
近年カテーテル手術の発展は目覚ましく、多くの場合はカテーテル手術で血行再建をしています。動脈にカテーテルと呼ばれる細い管を直接挿入して風船で血管を広げたり、ステントという金属の筒で血管を広げる手術でメスは使わず傷はほとんど残りません。数日の入院で退院可能となります。

②バイパス手術

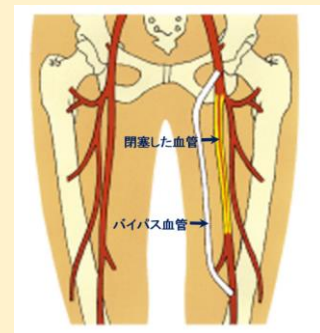
メスを使う手術で、詰まった血管の迂回路 (バイパス) を作り、血流を増やす手術です。迂回路には患者様の静脈の血管や人工血管を用います。入院期間はカテーテル手術より長くなりますが、カテーテル手術では治療できない血管にも対応できることがあります。



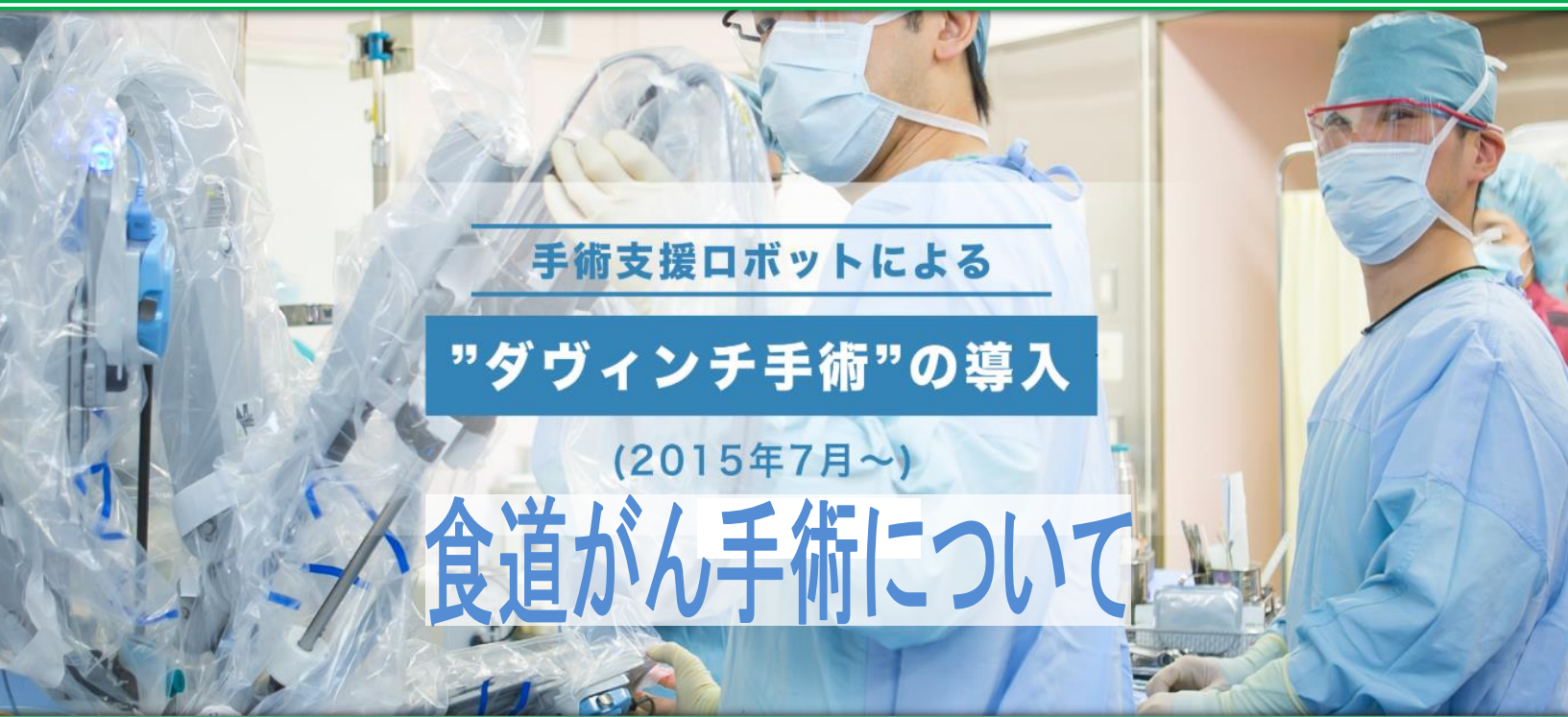
▲足の血管のCT画像：黄線の部分が閉塞しています。



▲カテーテル手術：足の付け根の動脈からカテーテル手術をしてステントを留置しています。



▲バイパス手術：太ももの動脈に対してバイパスをしています。



手術支援ロボットによる

“ダヴィンチ手術”の導入

(2015年7月～)

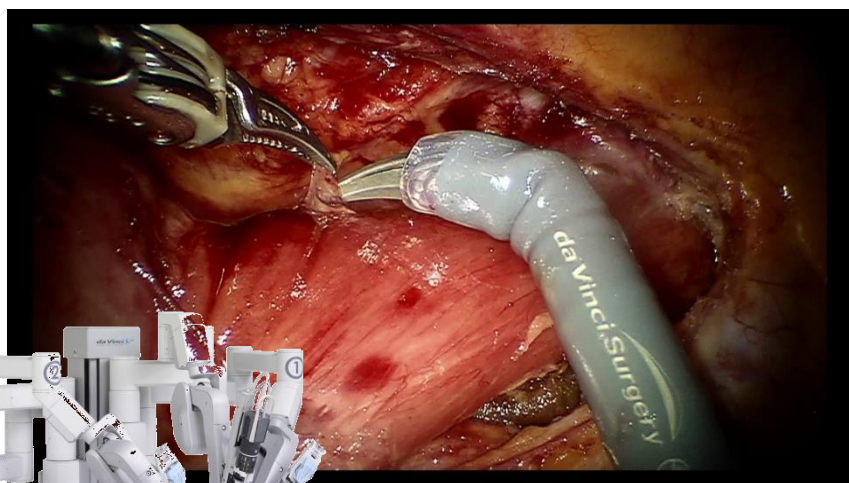
食道がん手術について

食道がんは、中高年の男性に発生しやすいがんで、過剰な飲酒や喫煙がリスク因子と報告されています。遠隔転移を認めない切除可能な食道がんの標準治療は外科手術です。手術では、開胸して、胸部の食道を切除すると同時に周囲のリンパ節の郭清（掃除）を行います。食道がんは、声帯の動きを司る反回神経周囲のリンパ節に転移をきたしやすいことが特徴です。よって、手術においては、反回神経にダメージが生じないようにしながらリンパ節郭清を行う必要があります。

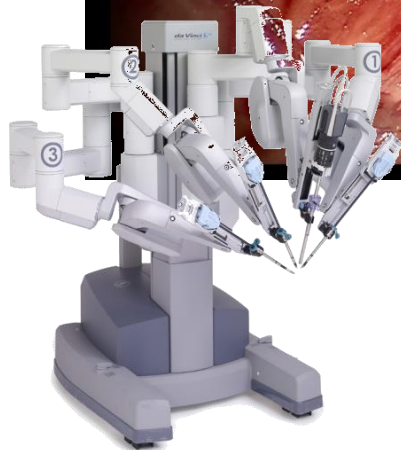


消化器外科副部長 久保尚士

また、食道に到達するためには、右胸を大きく切開し、肋骨を切離して、開胸する必要があります。近年、胸壁の破壊を軽減するために、胸部に1cmの穴を4・5箇所あけて行う胸腔鏡手術の有用性が報告されており、当科でも70%の患者さんに胸腔鏡手術を施行しています。胸腔鏡手術の利点は、手術創が小さいことによる痛みの軽減、美容上の美しさ、より早い術後回復が挙げられます。しかし、食道がんに対する胸腔鏡手術は、高度な技術が必要で、本邦全体の集計では、合併症や再手術率の増加が報告されています。



▲ダヴィンチ手術中のモニター映像





▲患者さんに接続されるダヴィンチ

ロボット支援下食道切除

最先端医療機器である、手術支援ロボット「ダヴィンチ」による胸腔鏡手術、いわゆる**ダヴィンチ手術**は、従来の胸腔鏡手術にロボットの機能を、組み合わせて発展させた進化版といえます。

執刀する医師が患者さんに触れることなく、遠隔操作で手術支援ロボット「ダヴィンチ」を操作して手術を行います。患者さんの身体に小さな穴を数か所開け、ダヴィンチの4本の腕に接続されたカメラや手術器具が、体内に挿入され、術者からの指令で各器具が外科医の手の動きを忠実に再現し手術が進行します。



▲ダヴィンチ手術後の創部

ロボットの手は、人間の手以上に関節の可動域が大きく、より繊細な動きが可能となり、特に従来の胸腔鏡下食道がん手術では、その操作性の悪さから反回神経へのダメージが危惧されていましたが、ロボット支援手術では多関節鉗子による手術操作で、反回神経へのダメージを大幅に減らした手術をすることが可能になります。

当科では、2018年4月よりロボット支援下の食道切除を開始しました。2018年10月までに、5人の患者さんに対し安全に手術を施行し、大阪府からダヴィンチ食道手術の認定施設と認められましたので、健康保険を使用したダヴィンチ手術が可能となりました。

担当医表

	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
上部消化管	玉 森		久 保						櫻 井	
下部消化管			前 田		日 月		井 上		西 居	

● 診察をご希望の場合、紹介状（診療情報提供書）をご用意の上、地域医療連携室ご予約ください。
 地域医療連携室（☎06-6929-3643）



当センターが取り扱うがんの種類

肝がん	乳がん	胃がん	大腸がん	食道がん	肺がん・縦隔腫瘍
前立腺がん	膀胱がん	腎がん	尿路がん	精巣がん	血液腫瘍（白血病・リンパ腫など）
脳腫瘍	骨軟部腫瘍	頭頸部がん	子宮がん	卵巣がん	性腺外胚細胞腫瘍
小児がん	皮膚がん	眼腫瘍	原発不明がん	口腔がん	胆嚢がん・胆管がん 膵がん



秋の味覚について

●●●栄養部 赤池 聡子

秋の味覚にはきのこ、さんま、梨、栗、柿、またお米も新米の季節となります。どの食材も旬の時期のものが値段も安く、おいしく、栄養価も高いという特徴があります。秋の味覚の食材を使用した、当院の献立を紹介します。

秋の献立

○きのこご飯 ○さんまの塩焼き ○かぼちゃの天ぷら

○小松菜の胡麻和え ○なし

エネルギー753kcal たんぱく質23.6g 塩分3.2g

秋の味覚をふんだんに取り入れたメニューです。

秋の味覚の代表格とも言える脂の乗ったさんまをはじめ、うま味たっぷりのきのこご飯に、瑞々しい梨を添えて、夏の暑さで疲弊した体にたっぷりの栄養を取り込んでいただけるメニューとなっています。



食品豆知識

●さんま●

8月中旬までのさんまはやせたものが多いのですが、9月下旬になると脂がのって、栄養価もおいしさも一段と増します。

脂肪分にはコレステロール値を下げ、脳血栓症などを予防するEPA（エイコサペンタエン酸）が含まれています。このEPAは変質しやすいので、新鮮なものを選ぶようにしましょう。

お知らせ&ニュース

イベント COPD認知度向上作戦を開催します

あなたの肺は健康ですか？今年で3回目を迎えました。今年もさまざまな体験ブースがあります。

- 日時／平成30年11月16日（金）13時30分～
- 場所／さくらホール

イベント「第1回合同市民医学講座」を開催します

大阪市立大学大学院医学研究科と合同で市民医学講座を開催します。

- 日時／平成30年11月17日（土）14時～
- 場所／さくらホール

イベント 市民医学講座を開催します

もっと知ろう！胃がん大腸がんのことと題しまして、検診の重要性や最新治療の講座を開催します。

- 日時／平成30年12月1日（土）14時～
- 場所／さくらホール



●詳細は当院ホームページをご覧ください。



大阪市立総合医療センター

3Hの理念

Heart For Public Service

広く市民に信頼され、地域に貢献する公立病院をめざす。

Humane

人間味あふれる温かな医療を実践する病院をめざす。

High-technology

高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

■発行責任者：大阪市立総合医療センター
〒534-0021

大阪市都島区都島本通2-13-22

地域医療推進委員会委員長 山根 孝久

<http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/>